

＜今日の説教のポイント マタイによる福音書 26 章 17～25 節＞

①マルコの報告と比べると — 予知能力が分かりにくい？ 否！

過越の食事場所を探す記事は、マルコ福音書の方がイエス様の予知能力をよく伝えているような気がします(14:12 以下)。では、マタイはイエス様の予知能力などに関心はなかったのでしょうか？ マタイに有ってマルコに無いものもあります。それは「わたしの時が近づいた」というイエス様の言葉です。「わたしの時」は十字架の上での死を意味しているでしょう。イエス様は、この先起こる十字架の死の出来事は予期せぬ不本意な出来事などではなく、自らがかわることで大事な意味を持つ出来事として捉えておられたのです！ ですから、マタイもこの主イエスの言葉を通してイエス様の予知能力について考えていたと言えるでしょう。しかも、場所探しよりはずっと重い意味を持つ出来事についての予知能力です！

②イエス様を裏切ったユダと他の弟子たちの何が違うのか？

ここの箇所を読むと、「なぜイエス様はユダを最後の晩餐に参加させられたのだろうか」と思います。しかしイエス様が、「あなたがたのうちの一人がわたしを裏切ろうとしている」(21)と告げられたとき、弟子たちは「主よ、まさかわたしのことでは」と代わる代わる言い始めた(22)とあるので、本当は、ユダだけでなく、誰も参加できなかったはずなのです！ しかし、神の事実は小説よりも奇なり！ 主イエスは、ユダも他の弟子たちも一緒に最後の晩餐に与らせて下さったのです！ 「人の子を裏切るその者は不幸だ。生れなかった方が、その者のためによかった」(24)という厳しい言葉には驚くかもしれません。しかし、考えてみると、その通りではないのでしょうか。しかし、救いの道は備えられていたのです！ 条件不十分な者を最後の晩餐に参加させて下さったイエス様の恵みをしっかりと捉え、それにお応えして主に従い行く道です。11 弟子が新たに歩み出した道です。聖餐式毎に覚え直すのがこの恵みです！